

老人クラブ三大活動

健康

友愛

奉仕

ねんりんおうみ

— 近江シニアクラブ 第91号 —

米原市近江老人クラブ連合会発行 電話 0749 (52) 4393

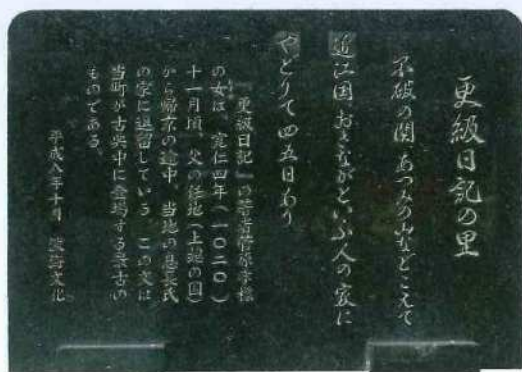
更級日記の里



息長橋付近から鈴鹿山系を見る みつさかの山とは・・・

【更級日記原文】

不破の関、あつみの山など越えて、
 近江の国おきながといふ人の家に宿
 りて、四五日あり。
 みつさかの山の麓に、夜昼、時雨あ
 られ降りみだれて、日の光もさやか
 ならず、いみじうものむつかし。
 そこを立ちて、犬上（いぬかみ）、
 神崎（かんざき）、野洲（やす）、
 栗太（くるもと）などいふところど
 ころ、なにとなく過ぎぬ。
 湖のおもてはるばるとして。なで島、
 竹生島などいふ所の見えたる、
 いとおもしろし。



旧近江庁舎駐車場ロータリー部に
設置されている石碑

【現代語訳】

不破の関、あつみの山など越えて、
 近江の国で息長（おきなが）といふ
 人の家に泊まって、四五日過ごした。
 みつさかの山のふもとに、夜も昼も
 時雨やあられが降りみだれて、日の
 光もちっともささないで、大変
 うつとしい。
 そこを出発して、犬上・神崎・野
 洲・栗太などいふ所々、なんとなく
 通り過ぎた。
 琵琶湖の水面をはるかに見渡して、
 なで島、竹生島などいふ所が見える
 のは、たいへん趣深い。

「更級日記は、作者の菅原孝標女が、
 寛仁四年（一〇二〇年）に父の菅原
 孝標が上総の国（千葉県中部）の国
 司の任期を終え、共に帰京した十三
 歳の頃から始まり、五十代までの約
 四十年間を書き綴った回想録です。

前半は上総の国から東海道を京の
 都まで旅した時の風景や出来事を綴
 る紀行文になっていて、その帰京途
 中、坂田郡息長村の豪族息長氏の家
 に逗留し四五日過ごしたとの記述が
 あります。

この文は当地が古典中に登場する
 最古のものです。」

第四十四回 近江高齢者大会

10月7日、近江学びあいステーション大ホールに於いて、二〇〇名の参加者のもと第44回高齢者大会が開催された。

北村会長の挨拶があり、「長寿お祝い」、「米原市老人クラブ連合会功労者表彰」が行われた。

第二部は、世継自治会有志で結成される「たなばた女男座」呼称たなばた一座」による舞踊。「エレキ秀やん」によるエレキギターの演奏がなごみを演出した。

大会に参加された慶祝者の皆様



北村会長 お祝いのご挨拶 第二の人生を楽しみましょう

近江老人クラブ連合会
会長 北村正博



寒さがひとしお身に
しみる季節となりました。
皆さん、毎日いかが
お過ごしでしょうか。

新型コロナウイルスで自由に出出できず精神的にも、体
方面でも心配です。

今年のコロナ禍での開催につきま
しては色々ご心配のご意見も頂き
ましたが、同時に高齢者の楽しみを
求められる声もあり、また、受賞され
る皆さんには大切な節目の年でもあ
ります。

しっかりとした感染予防対策と、
お互いにマナーをしっかりと守った
うえでの開催に踏み切りました。

日々、健康管理に留意されながら、
また、仲睦まじく活躍されてこら
れた受賞者の皆さんを、会員一同、心
よりお祝い申し上げます。

今年特別イベントとして九月か
ら旧近江町二十二カ所探訪のスタン
プラリーを実施しています。手作りの
マイ朱印帳を持って、楽しく回っ
ておられます。

お孫さんと一緒の方も見受けられ、
完成された方々が多数おられます。
私たち老朽連の高齢者は、地域の

和・人の和を大切に、地域の知恵
袋として活躍し、第二の人生を多い
に楽しみたいと思います。

皆様のご健康とご多幸を祈念する
と共に、老朽連へのご指導、ご鞭撻を
お願いしご挨拶いたします。

米原市老朽連が 箕浦 吉弘さんを表彰

第44回近江高齢者大会の席上、米
原市老朽連が近江母の郷NTシニア
会の箕浦吉弘さんを表彰。

長年にわたりシニア会会長として、
会の育成発展に寄与され、現在も会
の指導者として活躍されています。

「米原市老朽連功労者表彰」を 受賞して思うこと

近江母の郷NTシニア会
箕浦 吉弘



今年10月開催の「第
44回近江高齢者大会」
の長寿式典において、
多年に亘り単老クラブ
への運営育成に尽力し
たこの事由により「米原市老朽連功
労者表彰」を受賞しまして、身に余る
光栄と大変恐縮致しております。

私が65歳の年齢で、シニア会入会
後直ぐに役員の仲間入りし、平成29
年度から4年間会長職を務めさせて
頂くことになりました。
様々なシニア会活動を実践して来

たこの10年間を振り返りますと、ど
の行事も会員同志が集い・語らい、
そして歓談する場であってそのお手
伝いを担ったものではないかと思ひ
ます。

会長となった4年間は、通年行事
を進めていく中で、どのようにした
ら会員の皆様喜んで参加して頂け
るかを考えながら、企画・立案し、役
員の方々と相談のうえ、実践する
ことにしました。

特に留意したのは、当方のシニア
会は女性会員が過半数以上ですので、
女性が喜んで参加して貰えるイベン
トの企画や楽しいアトラクション等
を取り入れることとし、会食時の飲
食物は、女性好
みの嗜好品を用
意し、会員様同
志の愉快的な会話
やカラオケ等を
通じて盛り上
がって貰えるよ
うにしました。

何れにしても、会長職を4年に亘
り務めることが出来たのも、役員
の方々の指導・ご支援とシニア会
の皆様の深いご理解・ご協力のお陰
と感謝しております。

なお、今後においても役員として、
シニア会活動に寄与できるよう務め、
長年趣味と健康維持のため取り組ん
でいるマラソンや畑仕事を精一杯頑
張りながら、アクティブな人生を送
りたいと思ひます。



第44回近江高齢者大会 第二部
たなばた女男座

「たなばた女男座」、この団体は、近江地区世継自治会有志で結成されたグループで、世森玲子代表のもと近江地域はもとより、広く市内外でも公演活動を展開している。
当日の演目は、1舞踊「黒田節」。



2ハワイアン「小さな橋の下で」竹太鼓演奏など、司会の北村義一さんの話術も交え時間制約の中で会場を魅了させてくださった。
エレキの秀やん

「エレキの秀やん」は、湖北地区を中心に各地区から依頼され出演し活動されて、既になじみ深いエレキ

の演奏家である。

当日は、ビートルズ・ベンチャーズの曲や「さくらさくら」など日本の曲が演奏され、在りし日へのひと時の郷愁を覚えた。最後に、「青い山脈」。「コロナ禍のなかではあつたが、小声ながらも参加者は口々に合唱し、和やかな中で幕を閉じた。



緊急事態宣言も解除され、経済活動も徐々にもとに戻っていくようですね。ワクチン接種率も高くなり感染者数も減少していると報道されています。

でもこれからは「ウイズコロナ」ということでコロナと共に私たちの毎日の生活があり、各種活動に参加して行くこととなります。

「コロナウイルス感染拡大防止のため、私たちの老人クラブの活動もいくつか中止になりました。年度初めの総会も書面での報告、決議になり、予定されていた多くの行事にも影響がありました。

宇賀野老人クラブは長年夏季に「神明キャンプ場」を開設してきました。でも、昨年度も今年度もコロナウイルス感染拡大防止のため中止になりました。

例年、会員みんなで清掃活動をし、キャンプ場開設の時には「浜番」を割り当て、夏の暑い時期に汗を流しながら、駐車場、キャンプ場の管理運営に当たってきました。

小屋での談笑、昼食時のおしゃべりなどが会員相互の交流の場となっていました。

年間行事の一つとして、坂田神明宮、宇賀野神社の清掃活動は毎年七〜八回実施されてきました。



早朝から、境内の除草、落ち葉集め、木々の剪定作業などを行っています。緊急事態宣言が発出されている中でもコロナ感染拡大防止対策として清掃作業を実施しました。
今年度も実施できたのは坂田駅前清掃活動で、多くの方が気持ちよく駅を利用していただけるようにと駅前の花壇およびロータリーの清掃作業をしました。

その他ほぼ毎月の役員会、グラウンド・ゴルフ大会、健康体操、友愛訪問、墓地清掃作業などでもできる限り実施しました。

延期になっている「スタンプラリー」の朱印帳手作り体験は近々実施されます。

このように、手指消毒、マスク着用、三密を回避するなど新型コロナウイルス感染拡大防止に努め活動を実施してきましたが、

これからも「with CORONA」の気持ちで一日も早く日常が戻ることを願っています。



明日に向かって

長沢 中川雅晴

令和三年も残り僅かとなりました。振り返れば、新型コロナウイルスの感染拡大に翻弄された二年間であり、様々な行事・計画が次から次へと消え、以前のように皆が集まって「スポーツを楽しんだり、おいしいお料理を囲んで話を咲かせたり」といったこと等々は全て自粛を余儀なくされました。

このことは、地区老人会だけではなく、区行事についても様々な行事が中止になっており誠に寂しい限り

です。

しかし、我々はこの二年間を通じ、コロナ社会を生きていく術を少しずつでも学んできたと思います。

特に、我々世代は家に引きこもった状態であれば、所謂心身がフレイルな状態になる危険性を孕んでおります。こういったことを少しでも解消できればと近江老朽連では、スタンプラリーを企画・実施しております。

長沢長生会としての活動は、これからのスタートとなりますが、ひとつひとつ感染防止に十分注意して進じてまいります。旧近江町内にはまだまだ知らないことが一杯あると思います。このスタンプラリーを通して新たな感動を得たいと期待しております。

また、長沢には名刹「福田寺」があり文化財の福田寺御殿の修復もされました。

来年春頃には落慶法要を予定しておりますので、その後であれば御殿および名勝庭園の拝観も可能になると思います。



これからも、皆で一日一日を大事にし、未来に向かって元気に楽しく過ごしてまいります。

足跡を振り返って思うこと

能登瀬 KH N

世界がコロナ禍一色で、我が能登瀬区内も活動やイベント、祭の行事も中止でこれといったトピックスも無く、何を書いたらいいのか迷い自分の足跡を思いつくままに振り返ってみます。

会社の出張業務で30歳の時に文化大革命が終わって10年目の中国（陝西省咸陽）へ。3年半滞在。

今とは違いプロレタリア文革が色濃く残っていました。人を批判し密告する投書箱がありました。

昨日までこの職場に居た人（男女問わず）が今日は居ない、どこに行っただかだれも知らない。

そんなことは日常茶飯事で我々にも休日は四六時中、外事（目付け役）が隠れて監視されます。

また、公開裁判から公園にて公開銃殺刑まで1週間、こんなことを見聞きし日本に生まれて良かったとつくづく思いました。

34歳でソビエト連邦（タタール共和国）に2年間滞在しましたが、冬は寒く平均気温零下25℃以下、一番寒い日は零下45℃で5月のメーデーの日で零下12℃でした。

また、川幅4kmのボルガ川が凍り（氷の厚さ80cm）その氷が解ける時の音は凄じい迫力で大砲の様な凄じい音が来たといい、酒（ウオッカ）を飲んで氷と一緒に泳ぎます。

短い夏は森林浴で山に行くとき、水着姿で楽しんでいきます。でも、ただ一人でロシアへの出張業務（装置の搬入調整検収）は相談する相手もなく苦しい日々でした。2週間遅れの週刊新潮が楽しみでした（黒塗り多し）。

その他、60歳までに海外へは数十回渡航し、バスボートのページを10枚追加しに行ったり、国内は西や東に飛び回ること64歳連続きました。現在も現役で仕事をしています。

終わりに同年輩の方々がシルバードで頑張っておられるので小生も、もう少し現役で頑張りたいと思います。コロナが終息したら思い出の地へ妻と旅をしようと思っております。

取り留めのない事を書きましたがお許しください。



女性部長友愛会議開催

ニユースポーツ体験も

11月5日、「やすらぎハウス」にて開催。「友愛訪問」にクッションを各単老に配布しました。また、段差・悪路での車いす体験をして頂きました。

ニユースポーツは、先のパラリンピックで、国民全体に感動を与えた「ポッチャ」を実施しました。

簡単なルールで、しかも障害者の方たちと健常者とが共に楽しく競技できるスポーツです。今回は女性部長と理事との混成チーム対抗で車いすに乗っての競技を体験して頂きました。

会場は、競技者が球を投げるたびに歓声が上がっていました。



段差を乗り越える

絶賛！スタンプラリー

去る9月初旬、「近江地域ええとこ再発見スタンプラリー」が始まりました。この企画事業の発案は当老ク連事務局ですが、提案を承けた理事会は、即座に賛成。僅か三カ月で形作られ事業に踏み切ったのであるが、このスピードは、事務局の奔走に他ならない。



各自治会の特徴を活かしたスタンプを彦根の「消しゴムはんこ作家」に、肉筆の地名は岩脇在住の書道家に依頼。さらに、参加



車いすに乗って「ポッチャ」体験

者が自ら手作りするという重厚感を醸し出したオンラインワンの朱印帳をもとに事業は発進した。

この様な経緯のスタンプラリー。「地域再発見」とした企画はもの見事に脚光をあび、老若男女を問わず、単身で、夫婦で、家族で、グループで地域の内外から東奔西走。その姿に関係者一同よろこびを痛感させてもらっている。

しかし、事業の本質は「地域の再発見」ディスプレイ」とともに、「地域意識の再生」なのです。

我が国では「地方再生」が叫ばれ久しいものの、地方再生は名ばかりで、国から交付・補助されるその活動原資は、都合よく使いまわしされているのが実態。地域再生は、矢張り、地域の人々の地域意識に依っていることに外有りません。

先日、私の住む自治会の知人が、葉刈りをしている私を見つけ近寄って来られ

「昨日、スタンプラリー、全部行ってきた。大方を自転車で回った。よその事が解かってよかったワ。」その方は八十九歳の高齢。にもかかわらずの完走。余程にご自分が誇らしかったのでしょう。同時に、知らなかったことを知り得た喜び、そ

れを伝えるに來られたのでしよう。有難いひと時でした。

スタンプラリーの感想ノート

やすらぎハウスの完成スタンプと一緒に置いてある

「感想ノート」の一部を紹介します。原文のままです。



9月6日(月)

6才男の子と4才女の子。

楽しくハンコを探しに行っています。

また完成の時に、おじゃまします。

9月7日(火)

72才男。スタートです。

9月12日(日)

85才女。コナ禍、運動不足解消の為、自転車にstart。

1stまで頑張ります(箕浦)

(9月21日 自転車にて完走出来ました)

9月13日(月)

主人と2人で出発します。

9月14日(火)

全てを歩いてのんびり田園(秋の刈取)を見ながら楽しく歩いた。

また昔を想像するとあの時代がなつかしい。

喜寿の祝いでもするかな。

但し長沢・世継だけは坂田駅まで
自転車、後は歩いて。
最高に楽しかった。

9月18日(土)

ママと兄ちゃんのみーちゃんと
4人でいきました。朝8時〜夕方
5時までかかってぜんぶまわりま
した。とてもつかれました。
さいごおわるとたっせいかんがす
ごかったです。

がんばって行ったおかげできれい
な作品ができました。yua

9月21日(火)

彼岸花がきれいだった。
天気が良くて楽しく巡れた。

能登瀬 倉木太吉 89才

「倉木さんは兄弟二人ですべて回
られました。昔と今では景色が変
わっていて、とてもおもしろかつ
たこのことです。89才で頑張る姿
が印象的でした。事務局」

9月30日(木)

全部終わりました。川崎

10月2日(土)

子供3人(11才、7才、4才)と
大人2人で自転車で週末回しまし
た。

普段車でしか通らない道を自転車
で走り、気分転換になり新たな発
見がありました。

10月2日(土)

69才男、日比康雄。

朝9時出発で午後3時50分到着。

自転車で景色を見ながら。

腹へりました、ぺこぺこです。

10月5日(火)

友達と一緒に回っています。

まだ途中ですが頑張りたいと思っ
ます。とても良いアイデアです。

楽しく散歩させて頂いています。

ありがとうございます。

ありがとうございます。

10月5日(火)

あまり米原市を知らないのナビ
を頼りに行きました。

3日間かかりました。

終わったあとは良かったかなと思
いました。

親切にしてくださいました。

10月12日(火)

スタンプの赤が押しにくい。

社協の方にお世話になりました。

ありがとうございます。

10月25日(月)

中日新聞で知り、八日市から来ま
した。ていねいに教えていただき
ました。

がんばって近江町を観光しながら
回ります。

ありがとうございます。

ありがとうございます。

10月29日(金)

とても良かったです。

知らない所もたくさんありました。
又、楽しい思い出ができました。
ありがとうございます。

11月6日(土)

知らない町、会館を知る事がで
き、秋の紅葉の中、歩き、車、自
転車と楽しかったです。

旧伊吹、山東、米原もスタンプラ
リーがあれば又、行きたいしうれ
しいですね。

印がかすれて失敗もありましたが
老ク連の方々、
ありがとうございます。

朱印帳づくり

舟崎老人クラブ

9月25日、地元公民館で舟崎老人ク
ラブが中心となりスタンプラリー朱印帳づ
くりがおこなわれました。

クラブ会員をはじめ多くの方々に参加
され、用紙を折り曲げ、台紙に貼り付け
るなど悪戦苦闘。

それぞれが独自の朱印帳づくりに挑戦
されましたが、その様子をZTVが収録。
和やかなひと時が放映されました。



朱印帳づくりに参加された皆様

近江老ク連に入会しませんか
個人でも

今、近江老ク連加盟団体は、減少の一途をたどっています。その要因は、各単位老人クラブ会員の減少にあるのですが、このままでは近江老ク連の存続も危惧されかねません。しかし、一方で、加盟されていない自治会の高齢者から「私たちだけでも老ク連に入る事が出来ないか。」との意向も伝えられました。そこで、「個人会員」という枠を設け、一人でも多くの活動参加を目指したいと考えています。



私たちはあなたの参加を待っています

まだ、「加入募集」を位置付けたと言っただけで、個人会員の活動方向は決まっていません。あるいは、加入くださった個人会員の方々に決めてくださっても良いとも思われます。またあるいは、「私たちは何々がしたいから会員になっても良いか?」

それも結構です。

将来は、趣味の団体としての老ク連活動もあってもいいのではないかと考えます。この様なこもこもな疑問点を含め、ともに思考しようではありませんか。

どうぞフルってご参加ください。入会は、適宜、老ク連事務局までお願いします。

こぼれ話 教養部

教えられた

たなばた女男(いち)座

女男(いち)座の会員は女性十数名・男性数名。その比率からは、まさしく「女男座」であるが、その真意は決してそのように短絡的なものではない。あるまい。

おそらく「地域を元気にしよう」というアツイ思い入れの中で声を掛けあい寄り集まり、有志の会として結成されたのである。その背景には、人前で?・舞台に立つ?・忙しい・家が許さない・何で?等々。おそらく思い起こされるあらゆる事柄が弊害の要因として結成を阻み、練習の妨げと成ったことだろう。

しかし、「たなばた女男座」は堂々と演じ、紛れもなく見ている私たちを陶醉させたのである。

ムームーと言うのだからカラフルな、しかし、地味な花柄を装い、曲に合わせ身振り手振りとしなやかな身ぶるまい、それらに増しての絶やさない「笑顔」。

かつて、近江町は「元気で夢のある自治会活動」事業を展開。

町内の各自治会は揃って事業に取り組んだのであるが、その目的は、余儀なく衰退する自治会への活力、原動力の発見と想起、展開すること地域活性を考えたものである。今、各自治会活動でも人手不足を余儀なくされているが、いや・忙しい・しかし、自治会とその活動が存続しているのは、誰かがやっている。支えて下さっているのである。

「人間、万事塞翁が馬」と言っが、そうでは無い。人それぞれの思いの中に潜む考え

たなばた女男座



方、生き様が社会の在り様を大きく左右するのである。「塞翁が馬」なんて投げ遣りではなく、「たなばた女男座」の様に、前向きになることが地域づくりの大きな引き金になるのではないだろうか。

老人クラブ育成成功労者表彰

滋賀県老人クラブ連合会が

長沢長生会会長

中川雅晴さんを表彰

中川さんは長年にわたり長沢長生会会長として会の発展育成に務められ、平成30年度より近江老ク連の理事も兼務し、活躍されています。



老人クラブ永年勤続表彰

全国老人クラブ連合会が

近江老ク連事務局長

北川惣二さんを表彰

北川さんは長年にわたり近江老ク連の創造推進員兼事務局長として老ク連及び単位老人クラブの発展のため尽力されてきました。



会員や役員の信頼も厚く、引き続き現在も活躍されています。